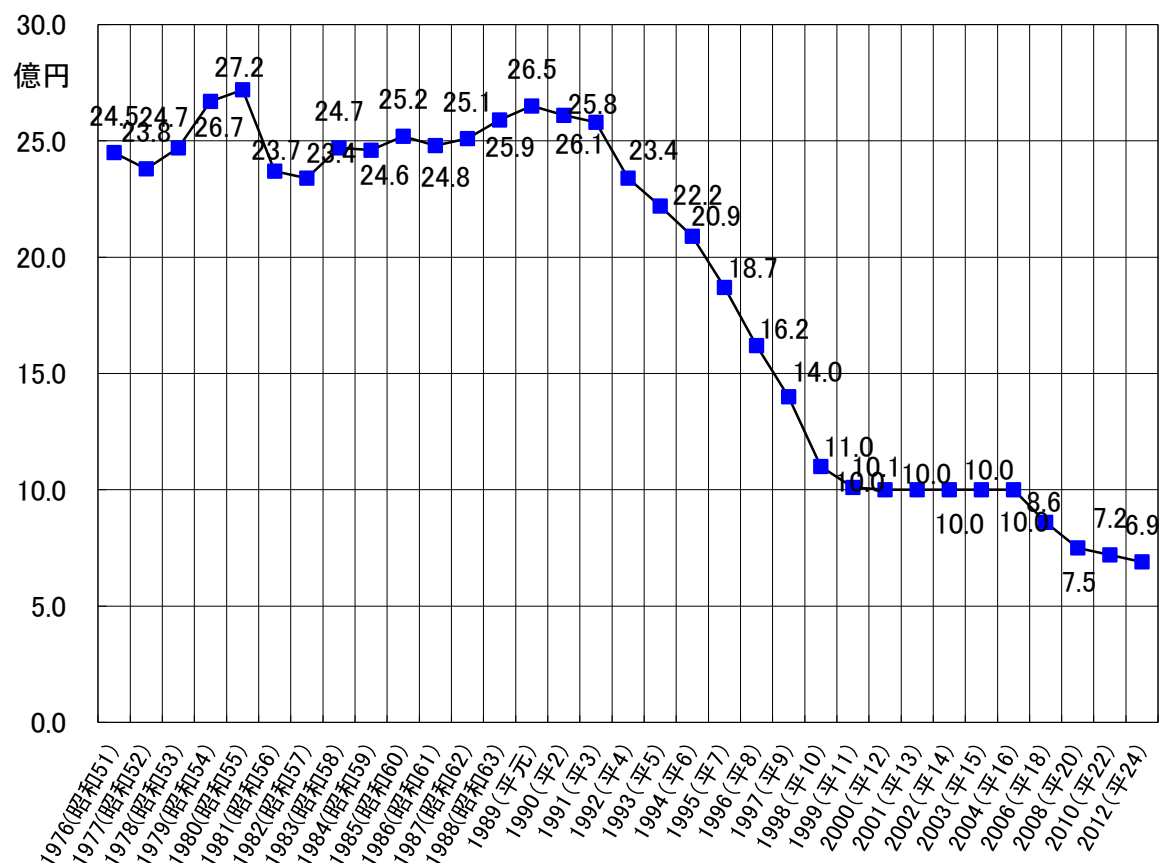


【漆器販売額の推移】

年	販売額(千円)	前回比(%)
2004(平16)	997,429	
2006(平18)	856,392	
2008(平20)	752,612	
2010(平22)	716,594	
2012(平24)	690,238	



【品種別販売額】

品種	2012年(平成24年)		2010年(平成22年)		前回比(%)
	販売額(千円)	構成(%)	販売額(千円)	構成(%)	
盆類	277,364	40.2	285,668	39.9	97.1
箱類	66,592	9.6	75,135	10.5	88.6
室内調度品	49,049	7.1	63,282	8.8	77.5
茶道具	33,100	4.8	41,330	5.8	80.1
膳類	4,316	0.6	11,562	1.6	37.3
盛器・その他	259,817	37.7	239,618	33.4	108.4
計	690,238	100.0	716,594	100.0	96.3

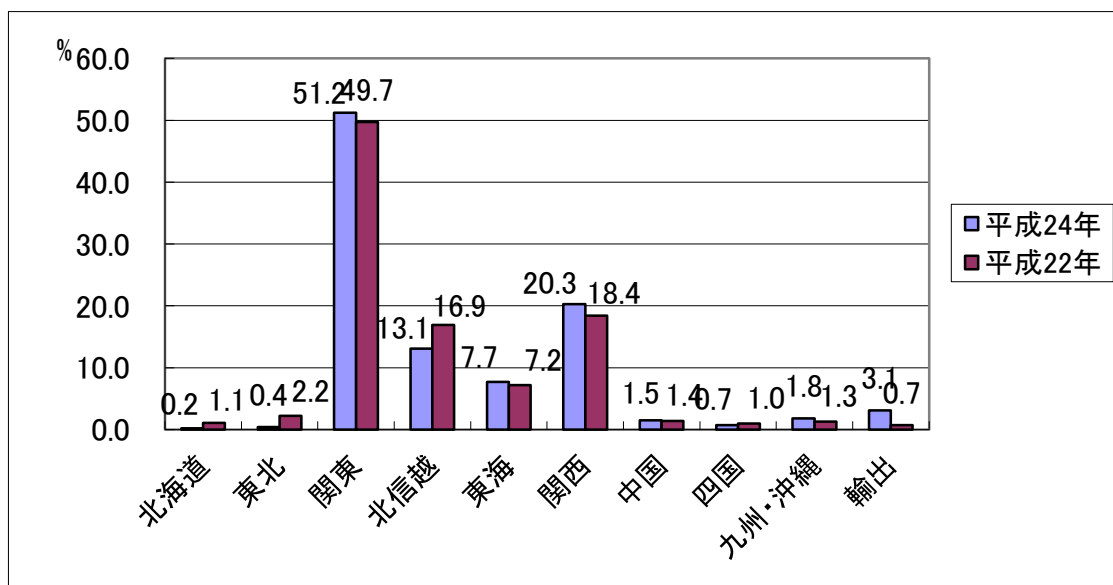
※その他…文具、食器類、新商品等。

【品種別販売額及び割合の推移】

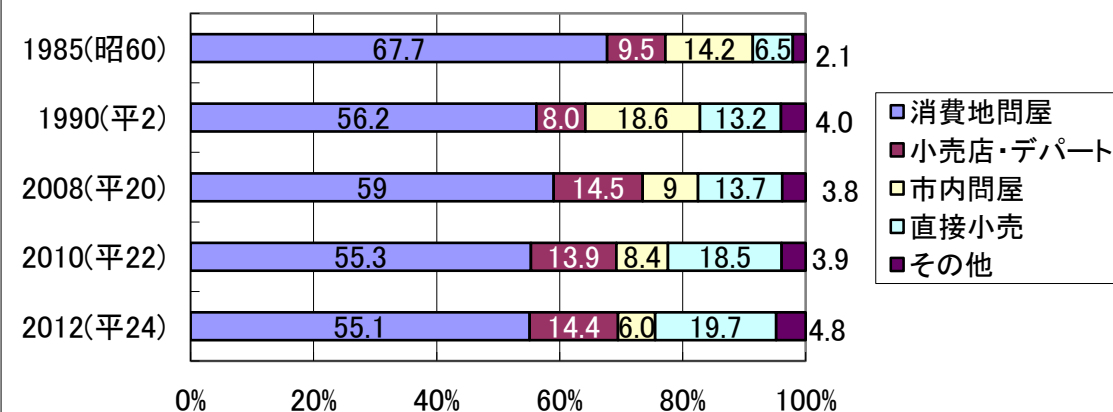
(単位:千円)

	1985(昭60)		1990(平2)		2008(平20)		2010(平22)		2012(平24)	
	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比	販売額	構成比
盆類	1,139,324	45.3%	981,713	37.6%	331,037	44.0%	285,668	39.9%	277,364	40.2%
箱類	455,227	18.1%	543,075	20.8%	79,256	10.5%	75,135	10.5%	66,592	9.6%
室内調度品	314,383	12.5%	216,708	8.3%	72,897	9.7%	63,282	8.8%	49,049	7.1%
茶道具	193,660	7.7%	190,598	7.3%	45,716	6.1%	41,330	5.8%	33,100	4.8%
膳類	115,693	4.6%	148,823	5.7%	12,127	1.6%	11,562	1.6%	4,316	0.6%
盛器・その他	296,778	11.8%	530,021	20.3%	211,579	28.1%	239,618	33.4%	259,817	37.6%
計	2,515,065	100.0%	2,610,938	100.0%	752,613	100.0%	716,594	100.0%	690,238	100.0%

【漆器地域別販売割合】



販売先の業種割合の推移



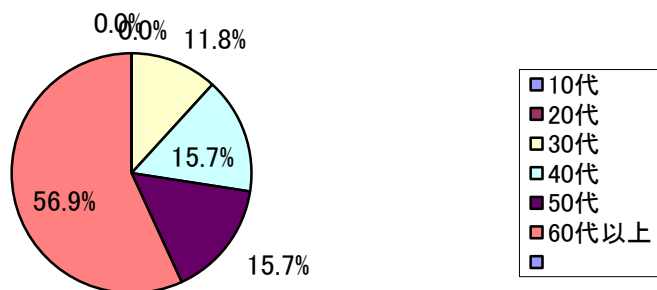
【製法別事業所数と生産額】

製法	2012年(平成24年)			2010年(平成22年)			前回比(%)	
	事業所数	年間生産額(千円)	構成比(%)	事業所数	年間生産額(千円)	構成比(%)	事業所数	年間生産額
木地	2	19,110	15.6	2	22,500	17.4	100.0	84.9
彫刻	2	920	0.7	2	533	0.4	100.0	172.6
青貝等	5	33,961	27.7	5	34,315	26.6	100.0	99.0
塗り	14	68,764	56.0	14	71,828	55.6	100.0	95.7
計	23	122,755	100.0	23	129,176	100.0	100.0	95.0

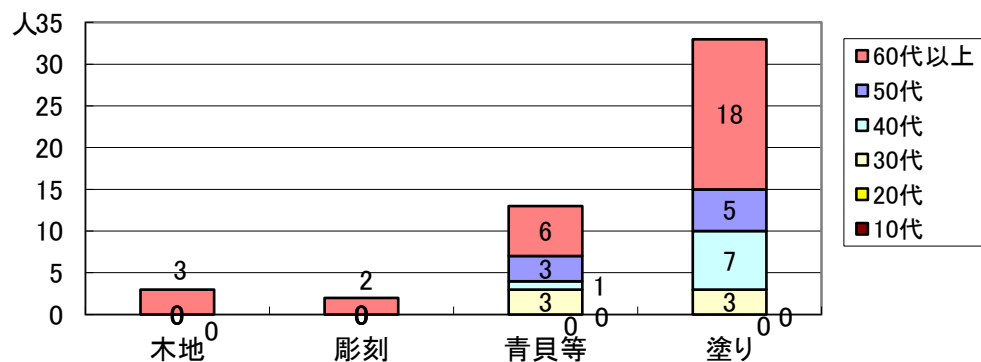
【事業所数と従事者数】

業種		2012年(平成24年)		2010年(平成22年)		前回比(%)	
		事業所数	従事者数	事業所数	従事者数	事業所数	従事者数
問屋		13	75	14	75	92.9	100.0
製造	木地	2	3	2	4	100.0	75.0
	彫刻	2	2	2	3	100.0	66.7
	青貝等	5	13	5	12	100.0	108.3
	塗り	14	33	14	34	100.0	97.1
計		36	126	37	128	97.3	98.4

製造業従事者の年齢構成

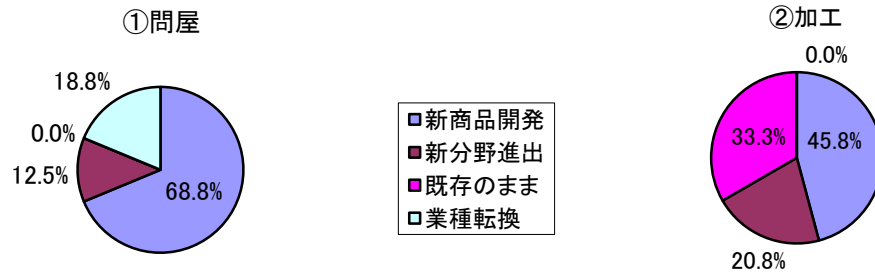


製法別内訳



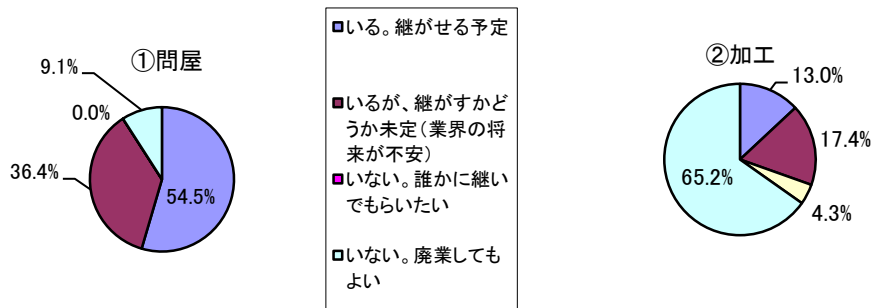
【意識調査について】

1 今後の方向性



銅器業界に比べ、問屋、加工業者共に「新商品開発を図る」との回答割合が高い。理由のひとつとしては、漆器の産地は全国に多数存在し、新商品開発や製品PRに対する意識が強いことが考えられる。ただし、加工業者においては「既存のままでよい」との回答も3割以上と非常に多い。売上減少に危機感を感じて新商品開発を考える一方、なかなか新製品・新技術開発に踏み切ることが出来ない事業者が多いのも現状である。

2 後継者について



問屋については、「後継者がいる」との回答が比較的高いが、業界の将来を不安に思い、後継者がいても継いでほしいといえない、と回答した事業者の割合も高く、廃業してもよいと回答した事業者と合わせると非常に高い割合となった。

また、加工業者については、「自分の代で廃業してもよい」との回答が約6割を占め、深刻な状況にある。高岡漆器の繊細な伝統技術は、一朝一夕に継承できるものではなく、高齢化と後継者不足という課題は早急な対処が求められる。